

1. 第3次総合計画における施策の体系

目指す都市像 (政策)	番号	5	名称	人と文化がふれあうまち		
施策	番号	1	名称	文化財の保護と活用		
主担当部	教育委員会事務局		主担当課	文化財課	部長名	辻岡章裕
関係部	魅力創造部		関係課	世界遺産・文化資産活用課		

2. 施策の基本方針(第3次総合計画の基本方針をもとに記入する)

この施策の目的	市民や来訪者が、世界遺産登録を進めている資産をはじめとする本市の豊かな歴史遺産との出会いにより、歴史や文化の価値を学び、体感できるまちを目指す。そのために、本市を特色づける貴重な歴史遺産を適切に維持管理し、将来にわたって良好な状態で保存し、活用を進めることで、市民や来訪者にとって歴史遺産が身近な存在であることへの理解促進と愛護意識を高めていく。
---------	---

3. 施策の現状分析(第3次総合計画の現状と課題をもとに記入する)

この施策の概況	この施策に対する市民ニーズなど、 具体的な事項について	社会環境や国・県の動向など、 施策を取り巻く環境について
	発掘調査成果や博物館での展覧会・イベント、世界遺産等についての問い合わせが増加しており、文化財の公開、史跡整備の早期実現化、博物館での展覧会やイベント内容への要望が多く寄せられている。これらのニーズに応えるためには国内外に向けて文化財の重要性を発信する啓発活動、調査成果の公開活用、市民や来訪者がより快適に学び、交流できる環境整備が必要である。	国・県からの助成を受けて実施している事業については、年々財政状況の悪化から財源確保が困難な状況である。また、国は文化財の適切な保存とともに、まちづくりや地域活性化の資源とする保存活用施策を推進しており、本市においても史跡の整備、歴史遺産の特性を活かした、文化財活用の取組や博物館など情報発信拠点の効果的運用が求められている。開発に伴う発掘調査については、事業の遅延が生じないよう迅速な対応が求められている。
これまでの成果	世界遺産候補地をはじめとする史跡・名勝を将来へ継承していくための保存活用計画を、文化財審議会第2部会での検討を経て作成した。博物館では、多くの人が檀原市の歴史への理解を深め、文化財と触れ合うことができた。また、博物館では年4回の展覧会やイベント、発掘調査成果展の開催など公開活用を行うことができた。	

4. 指標及びコストの推移

	名称及び単位等	27年度	28年度		29年度 (総計目標年度)	備考欄	
		実績	目標	実績	目標		
指標の推移	施策指標① (成果指標) 特別史跡藤原宮跡の国有化(単位:㎡)	518,888	529,000	526,066	549,000	講演会等参加 1,234名含む	
	施策指標② (成果指標) 史跡丸山古墳の公有化(単位:㎡)	66,157	66,267	66,440	73,946		
	施策指標③ (成果指標) 歴史に憩う檀原市博物館 入館者数(単位:人)	7,898	10,000	8,308	10,000		
	施策指標④ (成果指標)						
	施策指標⑤ (成果指標)						
コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算		
	歳出 (直接事業費)(a)	263,983	180,831	190,468	184,197		
	歳入 (b)	受益者負担額	21,222	22,094	15,397	20,054	
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	112,709	52,997	55,823	29,859	
	(a)-(b)=一般財源	130,052	105,740	119,248	134,284		
	正職員	従事者数 (単位:人)	13.90	14.10	13.55	15.30	
		人件費(c)	80,662	80,469	77,330	87,317	
トータルコスト (a)+(c)	344,645	261,300	267,798	271,514			

5. 施策の評価

有効性の評価	この施策の 成果の達成度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	成果向上の 可能性はどうか	1	1 十分ある	2 ある程度ある	3 あまりない	4 ない
	説明	史跡の保存整備活用事業の着手に向けて、計画に沿った公有化が進んでいる。また博物館の入館者数は増加しており、なかでも館の取組への国内外からの研修・視察や修学旅行での来館が増加している。				
	市政全般に対する 貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い
	説明	史跡地の公有化を進めることにより、史跡の保存整備活用事業が実現に向け、前進している。また、本市の史跡の整備の実現が早ければ早いほど、本市の史跡の活用事業の推進に大きく寄与することができる。世界遺産登録に向けた取組みは、本市の文化財の価値を高め、本市の歴史の価値学習や文化資源としての活用に大きく寄与することができる。埋蔵文化財の発掘調査により、遺跡の保護を図ると共に、その調査成果を公開活用することにより、文化財に対する理解を深めることができる。博物館の常設展や特別展・企画展、講座等を通して、日本国内の文化財と本市の文化財との関わりを広く啓発していった結果、本市の豊かな歴史遺産への理解と愛着が深まりつつある。				

6. 施策の課題

この施策の課題	史跡の保存整備活用事業を実施するには、史跡地の公有化が不可欠である。公有化を進めるには地権者の理解と協力、財源確保が前提であり、加えて公有化必要面積が広大であるため、公有化完了まで長期間を要する。当市及び民間開発の事業に伴う発掘調査は、専門職員不足のため迅速に実施するのが困難な状況である。 本市の文化財への関心・理解をより多くの人に深めてもらうため、博物館への入館者数拡大が必要である。現在、特別展・企画展やイベントの定期的な開催に加え、新たに博学連携事業を開始している他、修学旅行や校外学習、講師派遣の要請が増加傾向にあり、これらに対応する学芸員の人員が不足している。
---------	---

7. 次年度以降の施策の方向性

総合評価 1次評価	次年度以降の方向性	1	1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明	史跡地の公有化を継続的に進めるため、地権者との交渉と財源の確保に取り組む。世界遺産登録を進めている史跡・名勝の顕著な普遍的価値の情報発信、博物館での市民や来館者に親しまれる展示や博学連携事業等を通して、文化財愛護の意識向上を進めていく。また、取り組みを強化するために人員配置を増やしていく必要がある。			
総合評価 2次評価	次年度以降の方向性		1 強化する	2 維持する	3 縮小する
	説明				

8. 構成事業の方向性（それぞれの事務事業における今後の最適手段を検証する）

1次評価	説明	本市の豊かな歴史遺産を守り伝えるため、文化財保護管理活用事業は拡大していく。世界遺産登録推進事業では、世界遺産登録に向けた推薦書の作成、機運醸成のための啓発活動を、関係自治体と共に推進する。博物館運営事務事業においては、文化財への関心・理解を多くの人に深めてもらうために、特別展やイベント、博学連携事業などの活用事業を拡大する。藤原宮跡等整備対策事業は、観光資源としての役割も担っている花園等の解説・広報の充実や利便性向上を推進する。埋蔵文化財発掘調査事業は、開発等に伴う発掘調査を行い文化財保護についての理解を得ながら継続していく。
2次評価	説明	

9. 施策を構成するそれぞれの事務事業の評価

※下記評価の解説

- ・貢献度－事務事業評価の結果をもとに、この施策での貢献度(重要度)を絶対評価で示しています。
(a: 不可欠かつ施策の中核をなす事業、b: 不可欠な事業、c: 不可欠ではないが実施が望ましい事業、d: あまり有効ではない事業)
- ・方向性－事務事業評価の結果をもとに、この施策からみた各事務事業の今後の方向性を絶対評価で示しています。
(拡大する、見直しながらかける、縮小する、廃止又は休止する、完了する)
- ・優先度(ソフト事業(任意)のみ)－施策内での事務事業の優先度を相対評価で示しています。
(優先度が高い順に A、B、C、D)

		この施策に関連する事務事業評価の内容(評価内容の転記)			施策評価			戦 略	大 綱
NO.	課名、事務事業名 及び事業種別	事業の内容	事業の方向性及び H28決算額	貢 献 度	方 向 性	優 先 度 (ソフト任意)			
1	世界遺産・文化資産活用課 世界遺産登録推進事 業 (ソフト(任意))	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会の推薦準備作業として、推薦書や包括的保存管理計画作成に係る検討や、専門委員会、ワーキング会議等を奈良県・桜井市・明日香村と連携して開催した。「飛鳥・藤原」の魅力がわかり易く発信するための啓発として、協議会事業として首都圏での講演会や明日香村でのウォーキングイベント等を実施したほか、市主催イベントでのパネル掲示やグッズ配布、市民向け講座、関係団体との連携による啓発活動などを実施した。重要な構成資産である藤原宮跡の価値と完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て、特別史跡の指定範囲の拡大のための追加指定を実施した。	1 拡大する 3,562 (千円)	a	拡大する	A	○		
	2	世界遺産・文化資産活用課 藤原宮跡等整備対策 事業 (ソフト(任意))	国による本格整備の早期実現に向け、藤原宮跡内の用地買収を推進し、史跡地内の民有地の公有化を図る。藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される藤原宮跡整備協力委員会の協力を得て、春・夏・運・秋・朝堂院東ゾーンで花の植栽を行う。また榎原市HPや啓発用ポスター・チラシなどでPR活動を行い、藤原宮跡の知名度向上を図る。更に榎原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。	1 拡大する 26,018 (千円)	b	拡大する	C	○	
3	文化財課 文化財保護管理活用 事業 (内部管理・維持管理)	指定文化財の修理・維持管理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。(平成29年度より、世界遺産・文化資産活用課へ移管)文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。	1 拡大する 73,068 (千円)	a	拡大する		○		
	4	文化財課 埋蔵文化財発掘調査 事務事業 (内部管理・維持管理)	・文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。 ・土行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。 ・発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 ・発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。	2 現状のまま継続 60,252 (千円)	b	見直しながらかける			
5	文化財課(歴史に想う榎原市博物館) 博物館運営事務事業 (ソフト(任意))	・特別展や企画展、講座、体験学習等の活動を実施する。 ・出土資料等を適切な環境で保管・管理し、後世に伝える。	1 拡大する 27,568 (千円)	a	拡大する	B	○		

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業					
P L A N 計 画	事務事業名	世界遺産登録推進事業							
	担当部名	魅力創造部	担当課名	世界遺産・文化資産活用課	課長名	岸本 裕史			
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち					
		施策	1	文化財の保護と活用					
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる					
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり					
	行革大綱の位置付け	重点項目							
		項目							
		改革名							
	予算事業名	世界遺産登録推進事業費							
事業の開始年度	平成	19	年度	事業の終了予定年度	平成	年度			
対象	史跡等(構成資産)・市民(国民)			事業の内容説明	世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会の推薦準備作業として、推薦書や包括的保存管理計画作成に係る検討や、専門委員会、ワーキング会議等を奈良県・桜井市・明日香村と連携して開催した。「飛鳥・藤原」の魅力をわかり易く発信するための啓発として、協議会事業として首都圏での講演会や明日香村でのウォーキングイベント等を実施したほか、市主催イベントでのパネル掲示やグッズ配布、市民向け講座、関係団体との連携による啓発活動などを実施した。重要な構成資産である藤原宮跡の価値と完全性を高めるため、地権者に理解と同意を得て、特別史跡の指定範囲の拡大のための追加指定を実施した。				
事業の目的	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は、我が国の伝統的文化と東アジアの先進文化を融合・発展させ形成された「日本国」誕生を物語る稀有な遺産である。これら遺産群の価値を高め、国内外へ向けて広く発信し、世界が認める人類共通の宝である世界遺産に登録を達成することで、次世代に渡ってその価値を維持・継承することを目的とする。								
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業						
		2	市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)						
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明	奈良県・桜井市・明日香村と共に本市が世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」を、人類共通の遺産として保存していく責務を果たすとともに、本市の魅力向上と新たな魅力創造に貢献できる。						
		1	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い			
説明		説明	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は、平成19年1月に世界遺産暫定一覧表に記載され、登録に向けた取り組みを一層強化すべき状況下で取りやめることは、世界的な評価を得ることが出来ず、国民の貴重な文化遺産としての価値を下げることになる。						
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等		27年度	28年度	29年度(総計目標)	30年度	31年度	
				実績	計画	実績	見込み	見込み	
	成果指標	世界遺産登録		—	—	—	—	—	
	活動指標①	藤原宮跡の特別史跡指定範囲の拡大達成率		81.1	81.3	81.3	82.6	83.0	83.3
	活動指標②	広報掲載回数		11	12	12	12	12	
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳		決算	当初予算	決算	当初予算		
		歳出(直接事業費)(a)		16,074	3,955	3,562	3,853		
		歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)	4,550	0	0	0		
		(a) - (b) = 一般財源		11,524	3,955	3,562	3,853		
正職員		従事者数(単位:人)	3.00	2.30	1.95	2.60			
		人件費(c)	17,409	13,126	11,129	14,838			
トータルコスト(a)+(c)		33,483	17,081	14,691	18,691				
単位当たりコスト	計算式等 ()/()								
備考	登録推進協議会での推薦準備作業では、推薦書原案や国内外の類似遺産との比較研究、包括的保存管理計画の検討と作成を進めている。本市では、資産範囲の保護措置に必要な、藤原宮跡の特別史跡指定範囲の拡大を進めている。また、協議会や関係団体と連携し、集客イベントでの啓発や市民向け講座などにより、世界遺産登録に向けたPRと理解促進を進めている。								

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	登録推進協議会において、重要課題である推薦書原案や包括的保存管理計画素案の作成に必要な検討作業に取り組んでいる。本市でも、市主催イベント等での啓発や関係団体との連携、市民向け講座等の啓発を継続するとともに、藤原宮跡では多くの地権者の理解により、指定範囲の拡大が図れている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	世界遺産登録に向けた取り組みは、本市の文化遺産の価値を学び、保護への意識を高めることにつながることに、まちづくりや観光資源として地域の活性化も図れることから、貢献度は高いといえる。							
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
			説明	世界遺産推薦書原案や包括的保存管理計画など登録推進協議会における推薦準備は、進捗に応じた調査研究や資料作成など必要な経費が増大していくため、これを加速させるためには、構成資産の史跡範囲の拡大とあわせて、更なるコストや時間の増加が不可欠となる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会において世界遺産推薦書原案の作成や包括的保存管理計画を、奈良県・桜井市・明日香村と連携して速やかに作成し、協議会内外での啓発活動で、世界に伝えたい価値を世界遺産を取り巻く最新情勢を交えてわかりやすく発信することで、早期の世界遺産登録の実現と、登録への機運醸成や理解促進が期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		A	
説明			登録推進協議会におけ推薦書原案の作成や包括的保存管理計画などの準備作業を加速させるため、更なる調査研究が必要となると共に、啓発事業においても、国内外へ向けて広く情報を発信することが必要となることから、負担金の増額が不可欠となる。							

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業						
事務事業名	藤原宮跡等整備対策事業					
担当部名	魅力創造部					
担当課名	世界遺産・文化資産活用課					
課長名	岸本 裕史					
総合計画の位置付け	目指す都市像(政策) 5 人と文化がふれあうまち					
	施策 1 文化財の保護と活用					
総合戦略の位置付け	基本目標 3-2-4 安心して便利に暮らせるまちをつくる					
	基本的方向 ④ 歴史と風土を活かしたまちづくり					
行革大綱の位置付け	重点項目					
	項目					
	改革名					
予算事業名	藤原宮跡等整備対策事業費					
事業の開始年度	平成 18 年度					
事業の終了予定年度	平成 年度					
対象	特別史跡藤原宮跡への来訪者					
事業の目的	国民の貴重な文化遺産として世界遺産暫定一覧表に記載された特別史跡藤原宮跡を後世に継承し、また史跡の活用として花園整備を行うことにより、史跡地の荒廃防止及び景観形成・保全に配慮し、来訪者や地域住民が文化遺産に愛着を持てるような整備等を行うことを目的とする。					
事業の内容説明	国による本格整備の早期実現に向け、藤原宮跡内の用地買収を推進し、史跡地内の私有地の公有化を図る。藤原宮跡内の約6.5万㎡を文化庁より占有し、平成18年度から地元5町の住民で構成される藤原宮跡整備協力委員会の協力を得て、春・夏・蓮・秋・朝堂院東ゾーンで花の植栽を行う。また檀原市HPや啓発用ポスター・チラシなどでPR活動を行い、藤原宮跡の知名度向上を図る。更に檀原市藤原京資料室では藤原宮跡を紹介する展示(藤原京1/1,000模型等)を行い、史跡の重要性について周知・啓発を行う。					
妥当性評価	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業					
なぜ市が関与しているのか	2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)					
市の関与の必要性を評価してください	説明 世界遺産登録を目指している特別史跡藤原宮跡は、本市の貴重な観光資源でもあるため、文化庁もしくは国土交通省が実施する本格整備までの間、暫定的な活用により、知名度向上とともに地域の活性化を図る必要がある。					
やめた場合の影響は	1 1 非常に大きい 2 やや大きい 3 克服できる範囲内 4 ほとんど無い					
	説明 藤原宮跡の公有化が着実に進捗し、国による早期の本格整備が望まれている状況下で花園整備等を取りやめた場合、来訪者や地域住民が文化遺産にふれあう場を失い、史跡地の荒廃化が進むことが予想され、世界遺産登録や本市の観光施策に多大な影響を及ぼす事となる。					
指標の推移	名称及び単位等	27年度	28年度	29年度(総計目標)	30年度	31年度
		実績	計画	実績	見込み	見込み
成果指標	檀原市藤原京資料室来室者数	13,369	14,000	14,732	14,800	15,000
活動指標①	檀原市HPの更新	40	35	54	40	40
活動指標②	啓発用ポスター等の掲出、チラシの配布	ポ390 千25,000	ポ360 千22,000	ポ360 千22,000	ポ360 千22,000	ポ560 千28,500
DO実施	コストの推移	財源の内訳	決算	当初予算	決算	当初予算
		歳出(直接事業費)(a)	20,900	27,219	26,018	29,260
	歳入(b)	受益者負担額	154	182	153	182
		受益者負担額以外の歳入(補助金等)	0	5,321	5,321	0
		(a) - (b) = 一般財源	20,746	21,716	20,544	29,078
	正職員	従事者数(単位:人)	3.00	3.10	2.95	3.90
		人件費(c)	17,409	17,692	16,836	22,257
		トータルコスト(a)+(c)	38,309	44,911	42,854	51,517
	単位当たりコスト	計算式等				
備考	特別史跡藤原宮跡指定地内の用地買収を推進し、公有化面積は着実に増加している。花の植栽は年々リピーターやメディアの注目を集めており、藤原宮跡の知名度アップに繋がっている。藤原京資料室も平成28年度は過去最高の14,700人以上の来室者数を数え、藤原京模型等を通じて宮跡の解説に貢献している。					

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成28年度の榎原市藤原京資料室への来室者数が過去最高であった。花園の開花時期の問い合わせ電話や雑誌・テレビ等の取材の申し込み、旅行会社の観光ツアーへの組み入れ、大型バスの駐車場利用の問い合わせなども増加傾向にあり、特別史跡藤原宮跡の周知・啓発効果が確実に表れている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	特別史跡藤原宮跡の暫定的な活用による花園整備は、来訪者や地域住民が文化遺産にふれあえる取組みであると共に、本市における有数の観光資源としての役割を担っている。近年の認知度の高まりから見てもその貢献度は高いといえる。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない				
		説明	花園整備や榎原市藤原京資料室の運営は、藤原宮跡整備協力委員会に直接経費のみで委託していることや、PRについても集客施設や観光拠点等への無料掲出を条件に依頼していることから、コスト軽減の余地はない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		藤原宮跡の花園のPRを効果的に行ったことにより、来訪者は増加し、隣接する藤原京資料室の来訪者は前年度比約1.1倍の14,732人という結果が出た。今後、休憩施設や駐車場、トイレ等を増設し更なる利便性向上が必要とされる。花の植栽を用いて地下に眠る遺構などを表現するといった更なる手法を用い、文化遺産としての藤原宮跡を来訪者や地域住民にわかりやすく伝える必要がある。平成28年度には藤原京資料室内に展望室を設け、地上で見ることのできない藤原宮跡の新たな魅力を来訪者に提供できた。八木札の辻交流館の管理についてはハード面での利便性を向上させ、PRすることでさらに活用していくことができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明		藤原宮跡、八木札の辻交流館の知名度向上や地域の活性化を図るためには、花園整備等の暫定的な活用事業の充実や施設の利便性の向上が求められることから、今後更なる予算を投じる必要がある。								

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年6月2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業

P L A N 計 画	事務事業名	文化財保護管理活用事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる							
		基本的方向	④	歴史と風土を活かしたまちづくり							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	報償給与費、文化財保護総務費、史跡等保存整備事業費									
事業の開始年度	平成		年度	事業の終了予定年度	平成	年度					
対象	指定文化財		事業の内容説明	指定文化財の修理・維持管理に要する経費の補助を行う。公有化した史跡の草刈・倒木処理等維持管理を実施する。八木札の辻交流館の受付人員の配置や清掃等施設管理業務の契約を行い、適切に管理を行う。(平成29年度より、世界遺産・文化資産活用課へ移管)文化財の活用と保護の啓発のため、職員による出前講座等への講師派遣を行う。							
事業の目的	市指定文化財への指定や、指定文化財の所有者・管理者が行う維持に係る経費を補助し、文化財の適切な保全と次世代への継承を目的とする。更に整備に向けた史跡の公有化を進め、公有化済みの史跡は適切に管理を行い、整備を実施する。また、文化財の普及啓発を通じて、文化財愛護の精神を高める。										
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	1 非常に大きい		2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度 (総計目標)	30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	史跡丸山古墳公有化(%)			79	79	79	82	82	82	
	活動指標①										
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			137,038	86,008	73,068	61,506			
		歳入(b)	受益者負担額			61	37	45			10
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			84,337	39,489	29,272			20,619
		(a) - (b) = 一般財源			52,640	46,482	43,751	40,877			
正職員		従事者数(単位:人)			2.20	2.70	2.70	3.10			
		人件費(c)			12,767	15,409	15,409	17,692			
トータルコスト(a)+(c)			149,805	101,417	88,477	79,198					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	史跡等の維持管理及び活用等を実施することにより、指定文化財への見学者が増加する。更には史跡等文化財の毀損が発生した際にも、適切な維持管理を行ってれば被害の早期発見につながり、経費の縮小に反映される。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	2	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	歴史事象を実際に体感できる史跡等文化財を良好に維持管理及び活用することで、市民が文化財を身近に感じる場として利活用する機会が増え、文化財に対する愛護や保護の意識の高揚につながる。							
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない			
			説明	史跡の公有化が進むことにより管理に係る経費は増加する。しかし適切に維持管理を行うことにより、文化財の劣化や損傷を最小限に抑え、修理に係る経費を削減することができる。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		平成24年度に創出された史跡等整備活用補助金などを積極的に活用する事により、市単独経費の割合を軽減していく。また地域住民と協働で史跡の環境維持を行う事により、指定文化財等の良好な維持管理が図る事ができると共に、地域住民の文化財愛護の精神を高める事ができる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			4 廃止又は休止する	5 完了する						
			早期に史跡指定地等を公有化し、整備事業を推進して文化財の活用の促進を図ると共に、文化財保護の啓発活動をより一層進めていく。							

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (内部管理・維持管理) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	埋蔵文化財発掘調査事務事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	文化財課	課長名	竹田正則					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	総合戦略の位置付け	基本目標									
		基本的方向									
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	緊急発掘調査等事業費、民間受託等発掘調査事業費									
事業の開始年度	昭和	58	年度	事業の終了予定年度	平成	年度					
対象	埋蔵文化財			事業の内容説明	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護法に基づく手続きに係る事務処理。 土木行為者に埋蔵文化財保護についての理解と協力を求める。 発掘調査、試掘確認調査、立会調査の実施。 発掘調査出土資料の整理及び報告書刊行。 						
事業の目的	埋蔵文化財の保護										
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業									
		2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)									
市の関与の必要性を評価してください	やめた場合の影響は	説明		1 非常に大きい		2 やや大きい		3 克服できる範囲内		4 ほとんど無い	
		説明									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
	成果指標				実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	活動指標①										
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			63,322	30,739	60,252	30,817			
		歳入(b)	受益者負担額			19,540	18,707	13,183			17,368
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)			23,822	8,187	21,230			9,240
		(a) - (b) = 一般財源			19,960	3,845	25,839	4,209			
		正職員	従事者数(単位:人)			3.25	3.45	3.45			3.20
人件費(c)			18,860	19,689	19,689	18,262					
トータルコスト(a)+(c)			82,182	50,428	79,941	49,079					
単位当たりコスト	計算式等 ()/()										
備考											

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	1	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	設計の見直しや発掘調査により埋蔵文化財の保護が図られている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	発掘調査の成果を報告書として刊行し、埋蔵文化財の公開と活用にも努めている。							
評価	効率性評価	内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	2	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低い、改善が見込めない			
			説明	埋蔵文化財包蔵地における、建築、土木行為等の計画立案時点から、奈良県埋蔵文化財取扱基準に準拠する埋蔵文化財保護の協議を積極的に行い、試掘調査及び本発掘調査の件数を軽減する。						
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		土木行為等に伴う発掘調査は、人員不足のため迅速に実施するのが困難な状況であるため、職員を増員していく。職員の増員により、当市のインフラ整備が早期に実現され、民間資金が当市に投入されることになる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	2	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する			課内優先度	
説明			法定受託事務及び権限委譲事務のため、事務の内容・量に大幅な変更はない。							

事務事業評価表(平成28年度実施事業対象)

(作成日:平成29年 6月 2日)

事業の種類を選択してください。⇒ (ソフト(任意)) 事業											
P L A N 計 画	事務事業名	博物館運営事務事業									
	担当部名	教育委員会事務局	担当課名	文化財課(歴史に憩う榎原市博物館)	課長名	竹田 正則					
	総合計画の位置付け	目指す都市像(政策)	5	人と文化がふれあうまち							
		施策	1	文化財の保護と活用							
	総合戦略の位置付け	基本目標	3-2-3	若い世代の結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる							
		基本的方向	③	榎原の子どもたちに魅力ある学校教育を提供する							
	行革大綱の位置付け	重点項目									
		項目									
		改革名									
	予算事業名	博物館管理運営費、展示事業費									
事業の開始年度	昭和	53	年度	事業の終了予定年度	平成	年度					
対象	入館者			事業の内容説明	・特別展や企画展、講座、体験学習等の活動を実施する。 ・出土資料等を適切な環境で保管・管理し、後世に伝える。						
事業の目的	入館者に快適な見学空間を提供し、また、保管している資料を後世に伝えるため、適切に施設を管理・運営し、資料の展示・保存等を通して文化財の保護・活用を図る。										
妥当性評価	なぜ市が関与しているのか	1	1 公共性や収益性の観点から、市が関与すべき事業								
			2 市の関与について見直す余地のある事業(民間に事業の一部又は全部を委ねる余地のあるものや、住民ニーズが低下している等、社会情勢の変化によるものなど)								
	市の関与の必要性を評価してください	2	1 非常に大きい	2 やや大きい	3 克服できる範囲内	4 ほとんど無い					
			説明 本市の歴史や文化財を紹介し、市民等へ文化財への理解を促し、郷土愛を育む機会を継続的に創出することは、行政の責務である。								
やめた場合の影響は	説明	市民が本市の歴史や文化に触れ、理解する機会と郷土愛の喪失につながる。また、国民共有の財産である文化財に対する保護精神が希薄となり、本市の文化財が消滅し、本市の資産としての歴史遺産を失うこととなる。									
D O 実 施	指標の推移	名称及び単位等			27年度	28年度		29年度(総計目標)	30年度	31年度	
					実績	計画	実績	見込み	見込み	見込み	
	成果指標	入館者数			7,898	10,000	8,308	10,000	10,000	10,000	
	活動指標①	展覧会開催数			5	3	4	3	3	3	
	活動指標②										
	コストの推移 (単位:千円)	財源の内訳			決算	当初予算	決算	当初予算			
		歳出(直接事業費)(a)			26,649	32,910	27,568	58,761			
		歳入(b)	受益者負担額			1,467	3,168	2,016	2,494		
			受益者負担額以外の歳入(補助金等)								
		(a) - (b) = 一般財源			25,182	29,742	25,552	56,267			
正職員		従事者数(単位:人)			2.45	2.55	2.50	2.50			
		人件費(c)			14,217	14,553	14,268	14,268			
トータルコスト(a)+(c)			40,866	47,463	41,836	73,029					
単位当たりコスト	計算式等 (トータルコスト) / (成果指標)			5	5	5	7				
備考	(参考)生きがい教室運営補助事業(主務課:地域包括支援課の補助執行)を再任用職員(2名、週3日勤務)が主として担当している。										

CHECK	有効性評価	現時点での成果について	2	1 十分な成果が出ている	2 概ね十分な成果が出ている	3 現時点では十分な成果が出ていない	4 成果がほとんど無く、大幅な改善が必要			
		説明	平成27年度と比較して入館者は微増し、本市の歴史を体感・体験して学ぶことのできる博物館として、市民のみならず、小学校から大学に至るまで、学校教育等のニーズに寄与し、地域博物館としての役割を果たしている。							
	現時点での有効性を評価してください	上位施策への貢献度はどうか	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い			
		説明	文化財に関する情報を広く発信するだけでなく、修学旅行での活用も含めた観光への活用もなされ、入館者に本市の歴史や文化と触れ合い、その魅力を伝える場を提供している。							
評価	効率性評価 内容や手法を見直すことにより、コストや時間の低減が可能か評価してください	1	1 効率性が高く、これ以上の改善は見込めない	2 効率性が高いが、さらに改善できる余地はある	3 効率性が低く、改善が必要	4 効率性が低いが、改善が見込めない				
		説明	資産経営課による一括契約の実施や入札等の契約規則に則った予算執行を実施しているため、コスト削減はできない。							
ACTION	この事業について、今後、具体的にどうすることにより、どんな効果が期待できるか記入してください。		指定文化財の展示を含めた年3回の展覧会や関連行事、ロビー展示や体験学習の他、博学連携事業を実施する。これにより、博物館入館者の増加と、郷土愛の育成や文化財愛護の意識向上に貢献できる。また、本市の歴史の魅力をより多くの入館者に伝えることになり、これまで以上に観光の拠点としての役割を果たすことが期待できる。							
	修正行動	この事業の今後の方向性を、費用面も含めて記入してください	1	1 拡大する	2 現状のまま継続	3 縮小する	課内優先度		B	
説明			4 廃止又は休止する							
		説明	5 完了する							
		説明	現在の人員では、これ以上の事業を行うことは不可能であるため、学芸員と予算を拡充し、指定文化財の展示も含めた展覧会や講演会などを開催する他、親子連れで参加できる体験講座などの啓発イベントの開催を拡充する。							